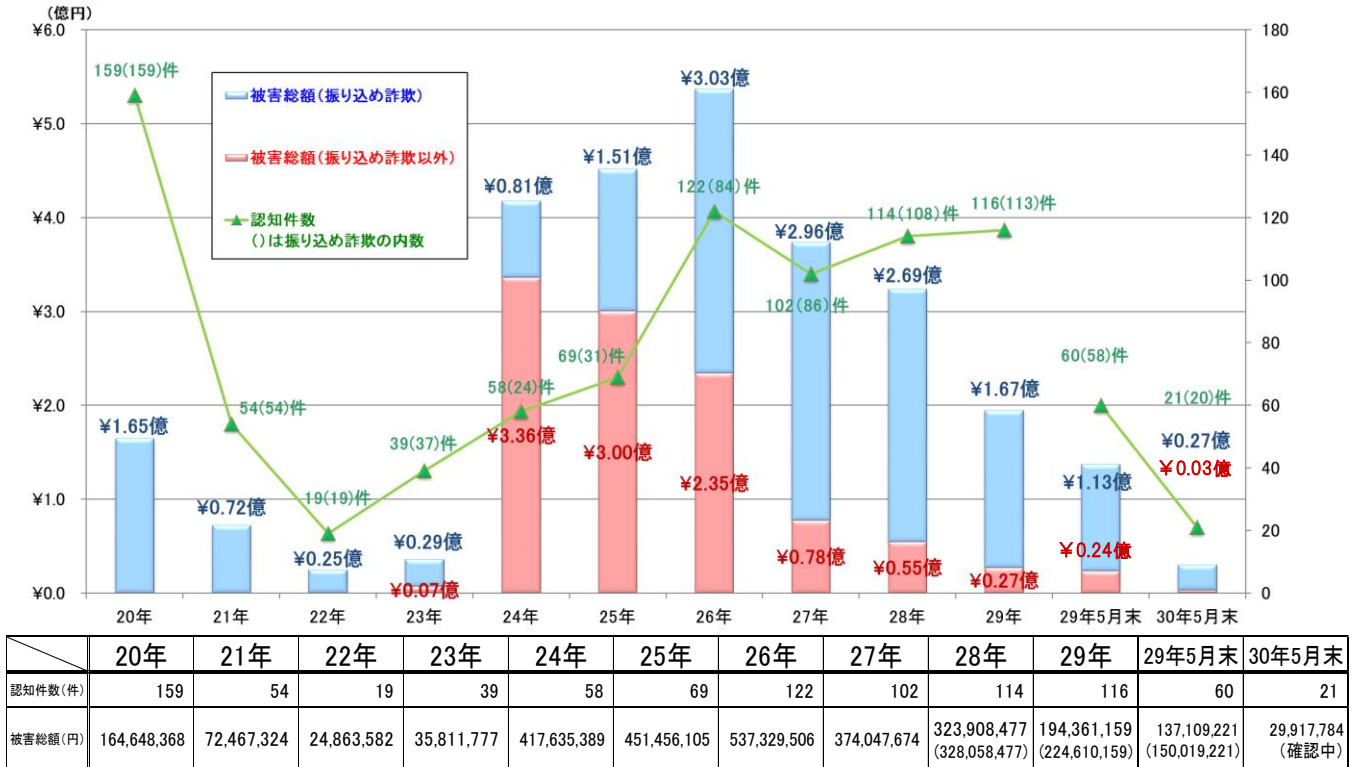


特殊詐欺の現状（平成 30 年 5 月末・暫定値）

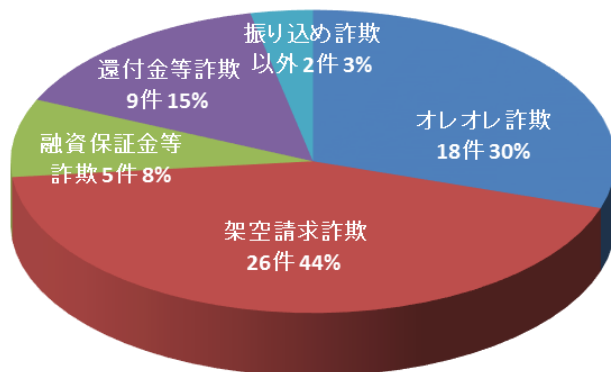
1 認知状況の推移



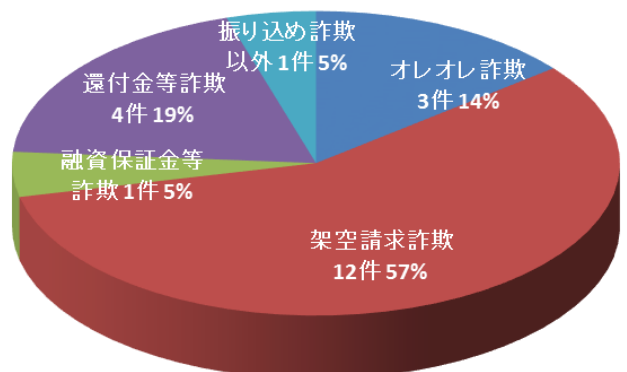
※かつこ内の数字はキャッシュカード手交型被害の払出額との合計
(前年同期比 認知件数-39件、被害総額-1億719万1,437円)

2 手口別認知状況

【平成 29 年 5 月末】



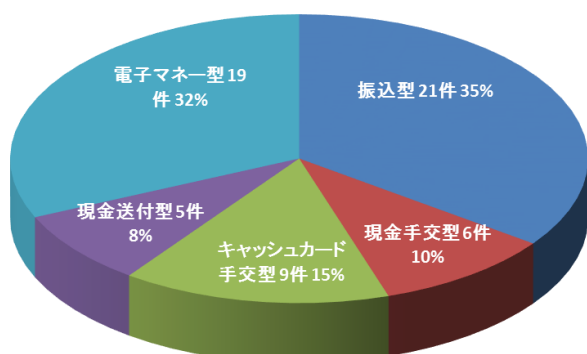
【平成 30 年 5 月末】



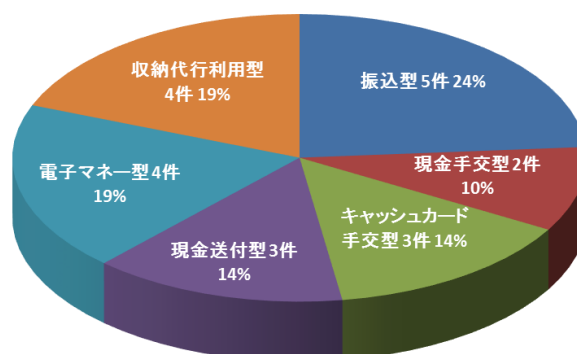
	オレオレ詐欺		架空請求詐欺		融資保証金詐欺		還付金等詐欺		振り込め詐欺以外		合計	
	件数	被害総額(円)	件数	被害総額(円)	件数	被害総額(円)	件数	被害総額(円)	件数	被害総額(円)	件数	被害総額(円)
5月末	3	800,000	12	21,124,000	1	0	4	4,993,784	1	3,000,000	21	29,917,784
前年比	-15	-26,300,000	-14	-29,314,504	-4	-28,083,177	-5	-2,771,756	-1	-20,722,000	-39	-107,191,437

3 交付形態

【平成 29 年 5 月末】

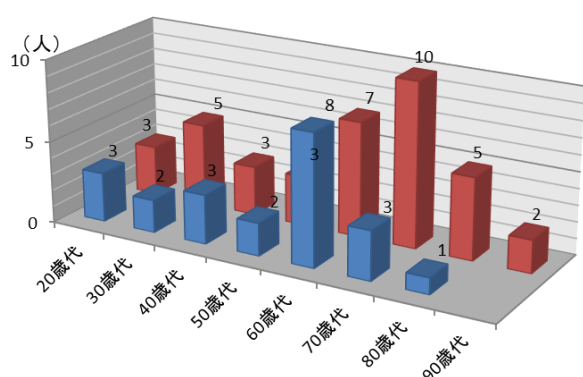


【平成 30 年 5 月末】

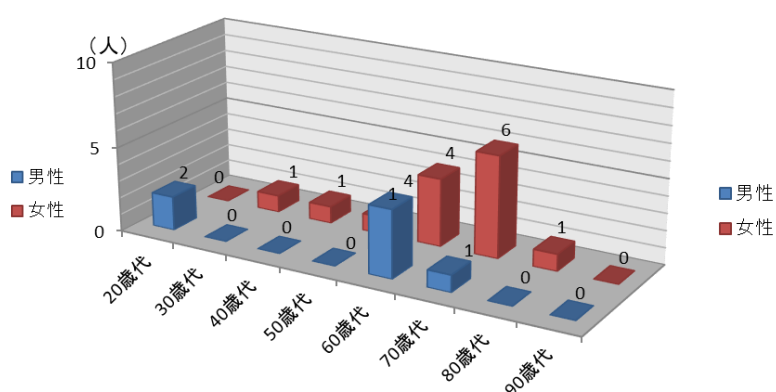


4 被害者の年齢・性別構成

【平成 29 年 5 月末】



【平成 30 年 5 月末】



5 最近の特徴

- 手口別では、架空請求詐欺が、認知件数及び被害額の過半数を占める状態が続いている。5月中に認知した4件、244万円の架空請求詐欺被害は、いずれもショートメール（SMS）によりインターネット有料サイトの未納料金を請求されたものである。
- また、還付金等詐欺については、5月中、新たに2件、約300万円の被害を認知したが、いずれも被害者は60歳代であった。県内金融機関が実施しているATM振込制限（70歳以上対象）を回避するため、60歳代が集中的に狙われている可能性がある。
- 交付形態のうち、電子マネー型については、被害者が犯人側から、電子マネーの購入場所として、コンビニエンスストアではなくショッピングセンターやレンタルビデオ店を指定される事例があった。

6 金融機関等における被害阻止状況

【平成 29 年 5 月末】

件数	被害阻止額(円)
90	128,839,447

【平成 30 年 5 月末】

件数	被害阻止額(円)
102	43,627,880

(前年同期比 阻止件数+12件、阻止金額-8,521万1,567円)